

学校教育活動 ～学校教育活動アンケート(教師・生徒・保護者)より～

公表資料

※指数の出し方についてはP.11に記載

- ・ 指数が2.5P未満となるものは改善を要する課題、3.0P未満となるものは注意を要する課題と判断する。
- ・ []はR4前期との比較

◆短期的な課題

①分かりやすい授業

注目した項目とその指数[教務主任]

教師:ねらいを明確にした授業を行っている	全校 3.2P[±0.0]			
生徒:授業はわかりやすい	全校 3.2P[-0.1]	1年 3.2P[-0.2]	2年 3.2P[±0]	3年 3.3P[±0]
保護:お子さんは授業がわかりやすいと思っている	全校 2.6P[-0.1]	1年 2.6P[-0.1]	2年 2.6P[±0]	3年 2.6P[-0.2]

分析[研究主任]

教師の3.2Pは前期と変わらないが、R3年度後期の3.4Pと比較すると-0.2P低下している。また、生徒・保護者においては、1・3年生で低下が見られる。生徒から「授業ではできた問題も、あとからワーク等でやろうとするとできない」「先生が話していること(英語)が分からない」という声も聞かれる。

改善策・計画等[研究主任]

「ねらいを明確にした授業」を意識し、そのねらいに沿った「まとめ・適用問題」を、授業終末で確実に行うことにより、生徒が「できた・分かった」と成就感を持てるようにする。また、定期テストの作問時に、どの程度の正答率を期待するのかをイメージすることで、「つけたい力が本当に身に付いたのか」を確認し、テスト後の指導に生かしていく。また、校内研究で取り組んでいる『「ゆさぶる・ひろげる・深める」問いかけ例』について、拡大教科部会や校内研究会において、1・2学期の実践を共有し、学び合う場を持つ。また、生徒が本当に理解できているのかを確認するための「問い返し」も授業の中で増やしていく。

②家庭学習の定着

注目した項目とその指数[教務主任]

教師:家庭学習の習慣(1時間以上)が身につけている	全校 2.5P[±0]			
生徒:家では毎日1時間以上学習している	全校 3.1P[-0.1]	1年 3.3P[-0.3]	2年 2.8P[-0.2]	3年 3.3P[+0.2]
保護:家庭学習の習慣が身につけている(1時間以上)	全校 2.7P[±0]	1年 2.7P[-0.2]	2年 2.5P[±0]	3年 2.8P[±0]

分析[研究主任]

12年生の低下が大きい。特に1年生では、次の「SNSやネット利用」が大幅な増となっていることとも関わっている。休み時間などに進んで宿題等に取り組む姿も見られるが、逆に家庭では、学習ではなくネットやゲーム等の楽しみを優先している様子が窺える。秋冬で部活動の時間が短くなったにも関わらず、その時間が「SNSやネット利用」に充てられていることが分かる。3年生においては、進路決定が目前に迫り、学習に対する意識の高まりが見て取れる。

改善策・計画等[研究主任]

12年では、生徒が途中で飽きたり、あきらめたりすることのないよう、短期で取り組める課題(家庭学習用のプリント、授業ワークのこまめな点検)を出すことで、テスト前だけでなく、継続的に家庭学習に取り組む習慣が付くように仕掛けていく。特に、2年では受験に向けての教材開始にあたり、進路選択を見据えて家庭学習に取り組もうと、学年全体で意識を高めていく。また、CL会で取り組んだ「自学ノート展覧会」では、他クラスの自学ノートを興味を持ってのぞき込む姿も多く見られたので、掲示板での自学ノート紹介をさらに充実させ、意識を高めていく。更に、与えられた課題から自主課題への転換も目指したい。

◆学校関係者評価委員からのご意見

【小学校】本日の授業公開で生徒の様子を参観することができよかった。小学校の授業と比べると、発言する場面は少ないが、生徒が落ち着いて学習に向かう姿、笑顔で楽しそうに学習する姿が見られた。どの生徒も、先生の方を見て集中していたのが印象的である。

【小学校】学校教育活動アンケートで、「いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている」に対して、97%の生徒が肯定的に回答しているのが際立つ。授業中の安心感につながっているのが分かる。残り3%の生徒の見取りをお願いしたい。

→【中学校】週末アンケートを週に1回実施している。全てを把握できるわけではないが、子どもたちの様々なつづきやきや拾い、懇談を持つ機会となっている。

【評議員】上の項目における生徒の3%が、そして保護者の11%が否定的な回答をしている。先生方全体で、子どもの状態を共有し、声かけしていくことで、子どもにも安心感が生まれるのではないかと。

→【中学校】今年度は職員数減により、1人の教師が複数学年を担当している。負担は大きいですが、横断的に生徒を見ることのできているのも効果的である。

◆中・長期的な課題

③SNSやインターネットの使用のルール ④SNSやインターネットの使用と学習 ※動画・ゲームも含む

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

③ 家庭では、SNS等の使用について ルールを決めている	生徒:全校 2.7P [-0.1]	1年 3.0P[-0.1]	2年 2.6P[-0.2]	3年 2.7P[±0]
	保護:全校 2.7P [-0.1]	1年 2.9P[-0.1]	2年 2.7P[±0]	3年 2.6P[-0.2]
④ SNS等は学習に支障のないように 使用している	生徒:全校 3.1P [±0]	1年 3.2P[-0.2]	2年 3.1P[+0.1]	3年 3.0P[+0.1]
	保護:全校 2.6P [-0.1]	1年 2.8P[-0.1]	2年 2.5P[-0.2]	3年 2.5P[-0.2]

<参考 生活アンケートより> ※数値は生徒の割合(%)

・ SNSやインターネット等に1時間/3時間以上費やす	1年 83/18[+9/-1]	2年 90/28 [+7/-1]	3年 86/27 [+2/+7]
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSに1時間以上/3時間以上費やす ・ 動画サイトに1時間以上/3時間以上費やす ・ ゲームに1時間以上/3時間以上費やす 	1年 35/6[-1/-2]	2年 49/7 [+9/+2]	3年 43/12 [+6/+8]
	1年 46/10[+2/-1]	2年 66/13 [-5/+1]	3年 52/12 [+4/+3]
	1年 47/6[+15/-1]	2年 52/13 [+5/+4]	3年 38/5 [-3/-4]

分析[生徒指導主事]

生徒と保護者の意識差は④「SNSは学習に支障のないように使用している」で顕著であったが、その差がやや大きくなった。生徒がどの程度インターネット関係に時間を費やしているかを見ると、3学年でゲームに費やす割合は減少したものの、その分SNSや動画サイトに費やす割合は増加し、全体としても3時間以上費やす3年生は7P増加している。受験期に向けて、この結果は課題である。ただし、どのような内容でインターネットを活用しているのかまではこのアンケートからは見えてこないため、次回以降、質問内容を検討したい。

スマートフォンやタブレットが生活に根付き、1人1台かそれ以上となる流れはもはや止めようがなく、1時間程度の使用は当然あるという前提で、「3時間以上費やす」割合をどのように減らしていくのかに傾倒していく時期にきている。

改善策・計画等[生徒指導主事]

SNS上のトラブルやそれがきっかけで起こった問題等は数件把握しているが、大きな問題にはなっていない。これが全てではないが、全体的に生徒たちはネット上のモラルや個人情報の発信、不用意な書き込みで相手を傷つけることがないように、気をつけているのではないだろうか。

一方で、「推し活」という言葉が注目されるようになり、インターネットさえあれば、中学生が自分の興味や嗜好の対象に多くの時間を費やすことが可能であり、SNSや動画サイトはそのために活用される。光野中学校のみならず、全国の中学生は自分の生活時間をどのようにコントロールしていくのが大きな課題である。

この問題に対して、携帯電話キャリア企業等と連携し、「自分の生活の中にスマートフォン等のデバイスをどうやって適切に位置づけるか」を学ぶ場を設定し、その学びから生徒が自分の課題として解決に向けて取り組んでいくことを目指す。

◆学校関係者評価委員からのご意見

【小学校】就寝時刻が遅い。子どもたちの話を聞いていると、10時などかなり遅い時間にゲーム上で待ち合わせをしている様子。家庭と連携したいが指導が行き届かない。来年度、『良い睡眠』についての講話を開催する。親子ともに学ぶ機会としたい。

【評議員】中学生だけでなく、高校生においても、SNS利用が生活リズムに及ぼす悪影響が目立つが、対応は難しい。

→【中学校】SNSの適切な利用は、大人でも難しいことなので、生徒達と一緒に考えていく機会としたい。

【評議員】教師側から見て、「親は何をやっているのか」と思うこともあるだろうが、悩みながら悪戦苦闘している保護者もいることを知っておいて欲しい。